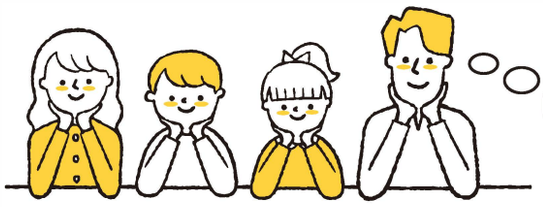
働いて生きている彼らから、未来の働く子どもたちへ
”働く力“や”想い“を彼ら自身で継承する仕組み

障⇔障 継承プログラム



何ができるの?
どんな情報を教えてくれるの?

詳しくは
こちらの
QRコードから
ご覧ください

1 実際に働いて生きている障がいのある彼らを動画で紹介

会員限定ページ(有料)コンテンツ

障がいのある彼らの仕事風景や作業内容
お給料のこと、働くまでのステップや
子どもたちへのメッセージ

2 研修動画の配信

会員限定ページ(有料)コンテンツ

障がい者雇用に取り組む企業の紹介
子どもたちが学ぶインクルーシブについて
障がい者自身の発信する座談会
角界著名人のセミナー動画など
様々なコンテンツを用意しております。

研修動画(予定)

- 中高6年間引きこもり、でも、今は工場長
  ~だって、来いって言われなかったから~
- 映画「えがおのローソク」監督の蛯原やすゆき氏が伝える
  難病や障がいと生きること
- 教育と就労をつなぐ就労特化型の放課後等デイサービス
- ファンが増やせる知的な障がいのあるキッズモデル
- 働いたからできる知的障がいのある彼らの休日の過ごし方
- 「障がいって何?」小学生が思うボク・ワタシの知っている
  障がい者とは?
- 先生を目指す全盲視覚障がい者の教員採用試験体験談

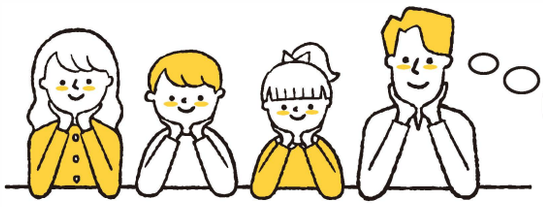
様々なコンテンツを企画しております。

あの大学教授が伝えたい	あの政府要職者が語る	あの女性議員が語る
彼らの現状とこれから	父として・公人として思う障がい者施策	母として障がいを考える

など…

働いて生きている彼らから、未来の働く子どもたちへ
”働く力“や”想い“を彼ら自身で継承する仕組み

障⇔障 継承プログラム



何ができるの?
どんな情報を教えてくれるの?

詳しくは
こちらの
QRコードから
ご覧ください

1 実際に働いて生きている障がいのある彼らを動画で紹介

会員限定ページ(有料)コンテンツ

障がいのある彼らの仕事風景や作業内容
お給料のこと、働くまでのステップや
子どもたちへのメッセージ

2 研修動画の配信

会員限定ページ(有料)コンテンツ

障がい者雇用に取り組む企業の紹介
子どもたちが学ぶインクルーシブについて
障がい者自身の発信する座談会
角界著名人のセミナー動画など
様々なコンテンツを用意しております。

研修動画(予定)

- 中高6年間引きこもり、でも、今は工場長
  ~だって、来いって言われなかったから~
- 映画「えがおのローソク」監督の蛯原やすゆき氏が伝える
  難病や障がいと生きること
- 教育と就労をつなぐ就労特化型の放課後等デイサービス
- ファンが増やせる知的な障がいのあるキッズモデル
- 働いたからできる知的障がいのある彼らの休日の過ごし方
- 「障がいって何?」小学生が思うボク・ワタシの知っている
  障がい者とは?
- 先生を目指す全盲視覚障がい者の教員採用試験体験談

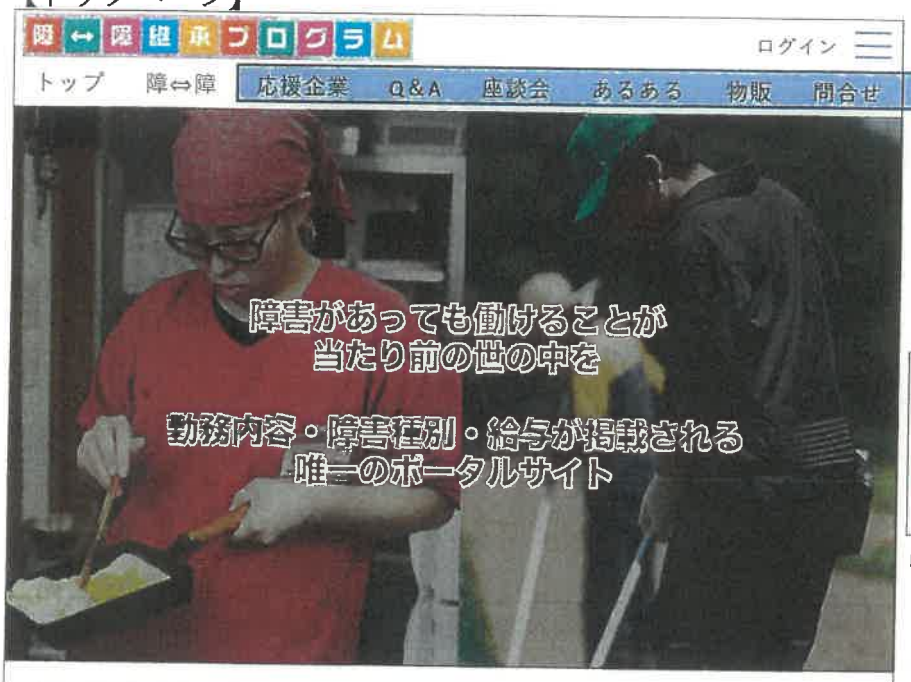
様々なコンテンツを企画しております。

あの大学教授が伝えたい	あの政府要職者が語る	あの女性議員が語る
彼らの現状とこれから	父として・公人として思う障がい者施策	母として障がいを考える

など…

障⇔障継承プログラム ポータルサイト イメージ

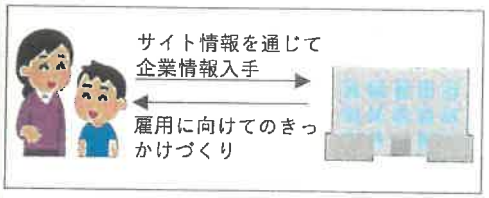
【トップページ】



トップメニューから各項目へリンク接続

「応援企業」

関係省庁や障害者雇用を推進する企業、病院や放課後デイなどを掲載。
これらの団代を通じて、本ポータルサイトで掲載する給与情報などが閲覧可能なため、興味を示した障害者や保護者との接点を作り、新たな雇用のきっかけが創出。



「Q&A」

障害者自身や障害に係る専門知識を持つ方から伺ったQ&A
例、仕事は楽しい？給料は何に使うの？等
障害者本人が答えることでリアルを追求

「座談会」

障害への知識や対話経験のない大学生と障害者との座談会。「知る」ことから始まる障害者理解の促進を図る。

「あるある」

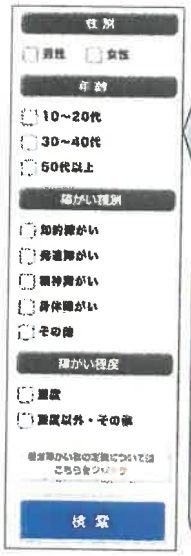
健常者からすると腫れ物を扱うようにされることもある障害者。クスッと笑える小噺により、親しみを持ってもらい、相互交流のきっかけにする。

『障⇔障継承プログラム』とは

現在働いている障害のある方から未来の働く障がいのある子どもたちへ。
働く力や想いを彼ら自身で継承するポータルサイトです。

働く障害者の『リアル』を見せてもらおう

働いている企業など、給与、障害種別なども本人やご家族の了承の上で公開。
すべては、未来に共に働く障害がある仲間のために。



次の内容で検索をかけ、障害者自身にあった職業をリアルに検討可能
【個人】性別、年齢、障害種別、程度
【企業】職種・職務内容

障⇔障継承プログラムの唯一無二の部分が『障害者本人が掲載』されていること。
本人や家族の承諾のもと、許可が取れた下記の項目について公開。

ただし、閲覧は個人情報保護の観点から、省庁・企業などの契約団体を通じて、障害者やその家族などの個人が閲覧。

※障⇔障継承プログラムポータルサイトは現在構築中のため、今後変更の可能性があります。

障⇔障継承プログラム

1　障⇔障継承プログラム

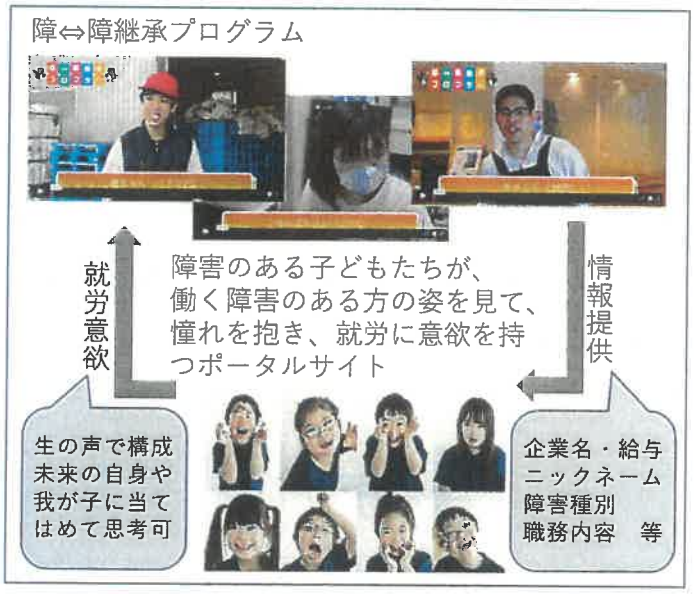
障害がある方たちの就労先、給与や生の声が載った唯一無二のポータルサイトから障害に係る様々な情報提供をすることによって、障害のある方自身やその家族、障害者と働きたいと考える企業の意欲を高め、雇用促進を図るためのプログラム

①私たちの考え

「頑張らなくていい。無理をしなくていい。できるだけでいい。生まれたままでいいよ」と、人は彼らにそう言います。
それでも私たちは、暑い日も寒い日も、泣いたり笑ったりもがいたりしながら、頑張って、無理をして、出来ないことを出来るように、一歩一歩、働く人になっていく彼らの姿を1000人以上見てきました。その姿から受け取ったパワーを、子ども達へ繋ぎたい。
誰もが可能性を活かせる社会。誰もが自分の足で歩ける社会。誰もが働いて生きていける社会。そんな社会で育つ子供たちはきっと、例え障害があろうがなかろうが、ウキウキと大人になることを待ち望むことができる子どもに育つでしょう。その子どもたちの放つ輝きが、日本中を笑顔にすると信じて、このプログラムを発信します。

②プログラムの概要

現在働いている障害のある方から未来の働く障がいのある子供たちへ、働く力や想いを彼ら自身で継承するホームページ（ポータルサイト）などを中心としたプログラムやネットワーク



③情報提供方法

・一般的な情報はポータルサイトとして、個人・団体を問わず、どなたでも閲覧可能
・「障害のある方の給与情報」などのコアな情報は、関連省庁、病院、障害者雇用企業、放課後デイなど、閲覧に係る契約を結んだ組織・団体など

④ポータルサイト掲載内容

A：障⇔障継承プログラム … 働く障害のある方の仕事から給与まで
B：応援企業 … 障害者が働く企業の生の声
C：Q＆A … 障害者自身や専門知識を持つ方から伺ったQ＆A
D：座談会 … 相互理解の第一歩、大学生や著名人と障害者の対談
E：あるある … クスッと笑える障害者あるある話
F：物販 … 厚労省関連申請日が記載されたカレンダーなど便利グッズ

障⇔障継承プログラム
ポータルサイト

障害に係る様々な情報を「生の声」にこだわり提供。給与情報など一部は契約団体を通じてのみ閲覧可能。

障⇔障継承プログラム ポータルサイト

⑤現在の協力団体

トヨタ財団、厚生労働省、企業による障がい者雇用連携ネットワーク会ほか多数

2　障害のある方を取り巻く現状

① 963万人の何らかの障がいがある方

現在の日本には…約963万人の何らかの障がいがある方が存在します。
この数字に、引きこもりや難病患者など、何らかの生き辛さを抱えている方を合わせると、人口の約10％を社会的弱者が占める国と言っても過言ではありません。
その数字は、すでにマイノリティと呼ぶには多すぎる数字と言えるでしょう。

障害区分	人数	人口千人あたり
身体障害者	436万0千人	34人
知的障害者	108万2千人	9人
精神障害者	419万3千人	33人
合計	963万5千人	76人

国民の7.6％が何らかの障害をしている

〈参考〉障害者の状況（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r01hakusho/zenbun/siryo_02.html

②「社会的弱者」「支援が必要な方」という位置づけ

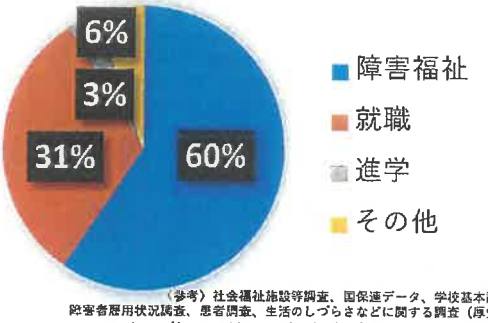
16歳から65歳までの障がい者のうち、非就労障がい者は約377万人。就労を達成している障がい者の多くも、短時間雇用や有期限雇用など、けっして充分な賃金を得ているとは言えません。

【障害者の在宅割合】

③特支学校を卒業した子の約60％は社会福祉施設

特に知的障がい者の就労状況は厳しく、特別支援学校を卒業した子どもたちの約60％は社会福祉施設に進みます。
作業所と言われる場所に毎日通い内職的な作業をし平均工賃は16000円/月という現状です。
親なきあと、障がいのある彼らが自立して生きていくということは、現在の日本では奇跡です。

【特別支援学校卒業後の進路】

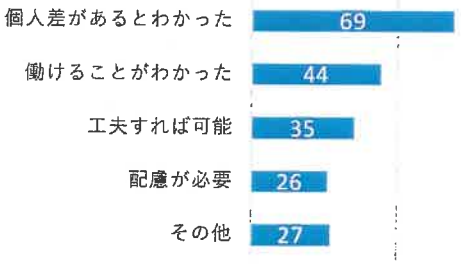


〈参考〉社会福祉施設等調査、国保連データ、学校基本調査、障害者雇用状況調査、患者調査、生活のしづらさなどに関する調査（厚労省）
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/seikatsu_chousa_list.html

④福祉を超えた企業等とのマッチング

企業では、少子高齢化や人口減少による労働人口の不足は加速の一途を辿っています。企業による労働力確保はどの業界にとっても待ったなしです。
働いて生きていきたいと願う彼らを、福祉という枠に閉じこめるのではなく、求められている場所で活躍できるように全力で伴走していくこと。今、求められていることは福祉を超えた当たり前のマッチングです。

【障害者雇用後の考え方の変化】



〈参考〉中小企業における初めての障害者雇用に係る誤解と対応に関する調査
https://www.jeed.go.jp/disability/data/casebook/ex_is/ex_research.html

⑤働いて生きている彼らの声

「働きはじめてから、自由な時間は減ったけど自由に決められることが増えた」
　中学高校と６年間引きこもりだった発達障がいの彼。
「私ね、作業所でお給料が１ケ月７千円だったよ。今はねぇ10万円。お母さんニコニコしてる」
　32歳で初めての一般就労を果たした重度知的障がいの彼女が笑う。
「僕の仕事はうんと大変な仕事じゃよ。女子供にはぜったい無理！」
　誇らしげに腕を組むダウン症のＡ君。

3　まとめ：彼らが働く姿を継承し『当たり前』な世の中づくりのために

働くということは、けっして大変なことばかりではありません。誰かや何かにとって自分自身が必要な存在であるという実感を得られ例え障がいがあってもなくても誰でもが手にすることのできる権利です。
今の日本では奇跡だと言われる彼ら。その彼らの働く姿を継承し、これから成長をしていく障がいのある子どもたちが大人になった時には、それが奇跡ではなく当たり前のこととなるように、このプログラムの発信に、お力をお貸しいただきたいです。